

☒ 話すこと ☒ 書くこと☒ 個に応じた教材の作成や指導の充実
☐ パフォーマンステストでの活用☒ 授業での活用
☐ 課外活動での活用☒ 家庭学習での活用実践の
ポイント

教科書を基盤とした生成AIの日常的な活用を通じた、個別最適な学びと発表・対話等の言語活動の充実を実現する授業モデルの構築

実証概要

<校数>11校(中学校:11校) <人数>2,705名(中学校:2,705名)
<学年>中学校:第1、2、3学年 <アプリ等>教科書AIワカル(東京書籍株式会社)

<AI機能について>教科書の内容に連動して回答を出力する生成AI「教科書AIワカル」。生徒が自由に質問・相談できる「ホーム対話」と、教科書に対応した学習内容を学べる「授業モード」を備える。ホーム対話では英作文添削や発表準備、授業モードでは文法・語彙・本文理解の定着に活用し、個別支援や言語活動の充実を図った。教員の授業準備にも活用された。

AIの効果的な活用方法や取り組み (AI英語モデル校事業)

①個別支援

教師による一斉指導と組み合わせで活用。生徒は自分の理解度に応じてAIに質問し、学習内容の理解と定着を図った。(下笠井中)
家庭学習で、本文理解や文法・語彙の確認に活用。授業では発表や対話活動に重点的に取り組み、学びの連続性を実現。(西郷第一中)

②言語活動の充実

教科書AIワカルを活用して意見のアイデア出しや英語表現の確認を行った上で、海外旅行と国内旅行をテーマとしたディベート活動を実施。生徒が自分の考えを英語で表現し、相手の意見に応じてやり取りする言語活動を充実させた。(守山南中 ほか)

③教師の支援

教師は教科書AIワカルを活用して、教科書内容に即した英語表現や想定される生徒の反応を事前に確認。教科書を基盤とした発表活動やディベート活動の課題設計、授業準備に活用した。(松山市立東中、守山南中、西郷第一中 ほか)

実践成果の検証結果 (AI英語モデル校事業)

①児童生徒の英語力の変化

A2相当以上の生徒の割合

10% → 48% +38pt

A2相当以上の生徒割合は10%から48%へ増加。中位層・下位層を含む学年全体で英語力の向上が見られた。

②児童生徒の関心・意欲の変化

英語をもっと
勉強したいリラックスして
できた

67.6% 72.0%

英語が苦手な生徒ほどAIとの事前練習や質問が効果的で、英語学習への心理的ハードルの低下が確認された。

③教師の指導の変化

個別支援の充実

100%

添削や質問対応支援などをAIが部分的に補完することで、個別ニーズがある生徒対応に注力できるように。

AI英語活用リーダーの育成や普及に関する取り組み (AI英語活用リーダー事業)

●全国11校のAI英語活用リーダーによる交流会と公開授業

- モデル校の実践知を共有し、生成AIを活用した英語授業のノウハウ蓄積・普及を目的として、全3回のオンライン交流会を実施。授業実践や課題を共有することで、各校の授業改善や活用方法の多様化につながった。
- モデル校での実践成果を広く発信し、生成AIを活用した英語授業の普及を図るため、公開授業を3校で実施。当該校の近隣地区の教員や教育委員会、大学教員との意見交換を通じて、実践知の共有と生成AI活用への理解促進につなげた。

事業全体を通じた成果や課題、今後の取り組み (AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業)

教科書を基盤とした生成AIの日常的な活用により、生徒一人ひとりの理解度や学習状況に応じた個別最適な学びを支援するとともに、発表・対話等の言語活動の充実を通じて主体的・対話的で深い学びの実現に寄与した。

一方で、生成AIの活用方法や授業への位置付けは学校・教師によって差が見られた。また、AI活用時の評価の在り方や、AIと教師が担う役割分担について更なる整理が必要である。

今後は、モデル校で得られた実践知を整理・普及するとともに、生成AIを活用した英語授業モデルや評価方法の研究を進め、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながる活用方法を検討する。